

プロジェクトテーマ：住民とのワークショップ（仮称）

実施時期：2024年度

場所：未定

対象：未定

現在の状況

町政の

- 令和5年10月1日制定の「軽井沢町住民等参画推進に関する指針」にて、庁舎や公民館などの公共建築の計画には住民等参画の手続を行う必要があると定められている。
- それに従い、見直し方針の中でも複数のワークショップを開催する計画が建てられている
- パブリックコメントや一部の委員の意見からも、前回のワークショップ（WS）に対して満足度が低い意見が出ている。
- 今回のWSの設計を行うことが急務である。

WSワーキンググループの

- 2/14の委員会終了時の池田委員長のご発言を受け、一部の委員や関係者が残りWSの設計に関する会話をを行う。
- 事務局により、WSの実施に関する実務経験のある委員が選出され、設計JVメンバーも加えたワーキンググループ（WG）を組成。（大久保、島崎、福原、山崎、50音順）
- WGの外部アドバイザーを、まちづくり支援部会でも活躍されている吉田さんに依頼、WS設計へのアドバイスを受けていく予定。
- WGは週1回のペースでオンラインミーティングを継続中。
- WGは意思決定機関ではなく、WSに関するプランを取りまとめ委員会に上申する会議体。

プログラムデザイン

コンテンツ（何をするか？）/意図（なぜするのか？）

【事前準備】

- WSの名称：住民等にわかりやすく、受け入れてもらいやすい名称
- WSのプロセス：どの時期に、どのレベル感・粒度のWSを実行するか。
- WSのコンテンツ：各レベル感のWSでどのようなコンテンツを準備するか
- WSのオペレーション：外部講師や住民等への公募も含め、WSのオペレーションを検討する

【WSの実施】

【WS後】

- WS結果の分析と委員会への上申
- WS結果の広報

目的

その理由

目標（終わりの状態）

- 住民等からの意見を聞き、基本方針・基本計画に反映させていく。
- 住民等からの意見を聞くプロセスで、住民等が本事業に参画することができるという経験を残す。
- 住民からの意見を聞くプロセスと、基本方針・基本計画に反映された結果を適切に公表することにより、本事業への賛同者・仲間を増やしていく。

進めるうえでの約束

懸念事項や乗り越えづらい課題・その対応

プロジェクト名：建築事業のための住民のワークショップ（仮称）

実施時期：2024年度

場所：未定

対象：未定

現在の状況

町政の

- ・ 庁舎や公民館などの公共建築の計画には住民等参画の手続を行う必要があると定められている
- ・ 庁舎の見直し方針で複数のワークショップ（WS）を開催する計画が建てられている
- ・ 今回のWSの設計を行うことが急務である（急務である理由は？）

委員会の

- ・ 一部委員：前回WSの満足度が低い
- ・ 2/14の委員会終了時の池田委員長のご発言を受け、一部の委員や関係者が残りWSの設計に関する会話をを行った
- ・ WSWGにWSデザイン検討を任せている

WSワーキンググループ（WG）の

- ・ WGは週1回のペースでオンラインミーティングを継続中。
- ・ WGは意思決定機関ではなく、WSをデザインし、委員会に上申する会議体。
- ・ 事務局により、WS実務経験のある委員が選出され、設計JVメンバーも加えたWGを組成。（大久保、島崎、福原、山崎）
- ・ 外部アドバイザーを吉田に依頼、WS設計へのアドバイスを受ける予定
- ・ **WSの目的がまだ明文化されていない**

プロマネの

- ・ WGのファシリテーターを務める

町民の

- ・ 前回ワークショップ（WS）満足度が低い
- ・ 事業・WSの認知度が低い

プログラムデザイン

コンテンツ（何をするか？）/意図（なぜするのか？）

■事前準備

- 1、WG会議で以下のことを決定する
 - ・ **WSの目的と目標**
 - ・ **目的と目標に即した対象者**
 - ・ 実施時期・回数・時間・レベル・粒度
 - ・ 目的と目標に合わせた各レベルのWSのコンテンツ
 - ・ 名称：住民等にわかりやすく、受け入れてもらいやすい名称
 - ・ オペレーション：外部講師や住民等への公募も含め、WSのオペレーションを検討する
 - ・ 役割：

- 2、委員会で上記内容が決定されている

- 3、呼びかけ

■WSの実施

■WS後

- ・ WS結果の分析
- ・ 委員会への上申
- ・ WS結果の広報

WGを進めるうえでの約束

- ・ 定例ミーティングは毎週月曜日に行う
- ・ **このWGが住民参加のWSの縮図として考える（このWGが成功したと言えなければ、WSは成功しないと階層フラクタルに見る）**
- ・ **十分に自分の意見を言えた、と思えるように関わる**

目的（建築事業のゴール）

- ・ 利害関係者にとって意味のある建物が出来、活発に利用されている（その他、建築事業の目的）

目標（WSプロジェクトのゴール）

量的目標

- ・ 基本方針・基本計画に反映させられるような
- ・ WSのアウトプットが、基本方針・基本計画に

質的目標

- ・ 住民等が本事業に参画したという実感を持つ
- ・ **町民の当事者性が上がっている（自分にと感じてている）**
- ・ **町民が意味のある建物ができることにワクワク**
- ・ **本事業への賛同者・仲間を増えている**

*他の利害関係者（観光客、別荘所有、通勤者）

懸念事項や乗り越えづらい課題・その対応

- 1) 町役場がWSを実施する事への懸念
 - 2) 設計JVが十分に意見を計画に反映できるか
 - 3) WSの進め方
- 【軽井沢町】
- ・ 味方が少ない（職員含め）（興味がない方、ネガティブイメージを持つ方が多い）
 - ・ 前回の印象の払拭方法
 - ・ 多様な住民意見の取捨選択方法
 - WSは意思決定機関ではないことを明確化することが重要
- 【設計JV窪田】
- ・ 職員（サービスする側）と住民（サービスを受ける側）の割合が前
 - ・ 職員が自由に発言できる環境づくり
 - 職員の中でのWSを開催したほうが良い（職員への実務的なヒアリング）
 - 対話型リサーチ（WILL・WANT・悩みを分かち合う）を実務的（定
 - ・ 市民課など窓口エリア（執務と住民エリアの接点）の意見リサーチ
 - 議論収集のデザインが大切 Ex.実寸スケールの模型的なものを準備（ロールプレイング方式）
 - ・ 前回WSの課題：短期間・回数が少ない・設計への反映経緯が不透明
 - ・ 前回WSの良かった点も振り返り、プログラムデザインに反映して
- 【島崎委員】
- ・ 住民対象の一般的なWSに職員も参加して、職員も一住民の視点で
- 【福原委員】
- ・ 委員会への伝え方→軽井沢町から説明予定。来週の本WGで軽井沢
 - ・ 方針を固めすぎて説明すると他の委員から反発がありそう わかり
- 【設計JV三浦】
- ・ この量の議題のWSを準備するにあたり、どの程度の期間が必要か
 - 一般的には各週会議を実施して3~4か月かかる。非常にタイトな状況
 - ・ 大きな方針を関係者で決めることが大切。
 - （窪田、山崎委員）工程を守ることは契約等を考慮すると大切（反
 - ただし、要望内容によって反映できるリミットが異なるので、フェ

来週までにWSのトピックを考えてくる

参考：マルチステークホルダーによるワークショップ実施のための戦略的デザイン

ステップ1：Calling（使命）

- 想いや願いを聴き合う（もし実施していなければ、一度やっておくと良いです。チームングにも通じます）

ステップ2：Clarity（明瞭）

- 戦略の策定：目的、目標、条件や制約、懸念などを明確にする（←イマココ）

ステップ3：Preparation（準備）

- 計画の策定、利害関係者への呼びかけ、実施施策の準備をする

ステップ4：Meeting（集う）

- 関係者を集め実施する（会議、対話会、研修、勉強会など）

ステップ5：Harvesting（刈り取る）

- ステップ4で明らかになったことを集め、共有できる形でまとめる（レポートや写真、報告書など）

ステップ6：Action（実践）

- ステップ4で決まったこと共有されたことを実践する

ステップ7：Reflection（振り返り）

- 今までのステップを振り返り、次のステップの検討をする

ステップ8：Repeat（やり続ける）

- ステップ6やステップ1に戻り、引き続き目的に向けて行動し続ける

カオスな場を作り、創発的にアイデアを生み出していくプロセスの戦略的デザインになります。

プロジェクト名：軽井沢町庁舎改築周辺整備事業住民のワークショップ（仮称）

Copyright ©2024 株式会社 Dialogic Consulting

目的（事業のゴール）

- ・ 質実剛健ながらも品格があり、機能美も感じられる美しい建物が建設されている。
- ・ 住民等が建築物に愛着と誇りを感じている。

実施時期：2024年度

場所：未定

対象：未定

現在の状況

町政の現在の状況

- ・ 庁舎や公民館などの公共建築の計画には住民等参画の手続きを行う必要があると定められている
- ・ 庁舎の見直し方針で複数のワークショップ（WS）を開催する計画が建てられている
- ・ 4月以降のWS開催に向け、WSの設計を行うことが急務である

委員会の現在の状況

- ・ 一部委員：前回WSの満足度が低い
- ・ 2/14の委員会終了時の池田委員長のご発言を受け、一部の委員や関係者が残りWSの設計に関しての会話をを行った
- ・ 3/19開催の委員会でワーキンググループの推進を迫認頂く。

WSワーキンググループ（WG）の現在の状況

- ・ 仮WGは週1回のペースでオンラインミーティングを継続中。
- ・ WGは意思決定機関ではなく、WSをデザインし、委員会に上申する会議体。
- ・ WS実務経験のある委員に声かけられ、設計JVメンバーも加えたWGを組成。（大久保、島崎、福原、山崎）
- ・ 外部アドバイザーを吉田氏に依頼、WS設計へのアドバイスを受ける予定

町民の現在の状況

- ・ 前回ワークショップ（WS）満足度が低い
- ・ 事業・WSの認知度が低い

WGを進めるうえでの約束

- ・ 定例ミーティングは毎週月曜日
- ・ このWGが住民参加のWSの縮図として考える
- ・ 十分に自分の意見を言えた、と思えるように関わる

ワークショップ・プログラムデザイン

■事前準備

1：WG会議で以下のプログラムデザインを行う

- ・ WSの目的と目標
- ・ 目的と目標に即した対象者
- ・ 実施時期・回数・時間、レベル、粒度
- ・ 目的と目標に合わせた各レベルのWSのコンテンツ
- ・ 名称：住民等にわかりやすく、受け入れてもらいやすい名称
- ・ オペレーション：外部講師や住民等への公募も含め、WSのオペレーションを検討する
- ・ 役割：

2：委員会で上記内容を決定

3：WSの開催を町民に広く伝え、参加を呼びかける

■WSの実施

■WS後

- ・ WS結果の分析
- ・ 委員会への上申
- ・ WS結果の広報

目標（WSのゴール）

量的目標

- ・ 基本方針・基本計画に反映させられるような住民等の意見が集まっている
- ・ WSのアウトプットが、基本方針・基本計画に反映されている

質的目標

- ・ 住民等が本事業に参画したという実感を持っている
- ・ 町民の当事者性が上がっている（自分にとって大事なプロジェクトだと感じている）
- ・ 町民が意味のある建物ができることにワクワクしている
- ・ 本事業への賛同者・仲間を増えている

*町民以外の利害関係者（観光客、別荘所有者、通勤者、通学者、職員）の意見を聞く場の設定を検討する必要がある。

懸念事項や乗り越えづらい課題・その対応

【軽井沢町】

- ・ 事業全体への味方が少ない状況である。町民からの支持が得られていないことに加え、町職員もあまり自分事ではなく、事業に対し前向きな印象をもっていないように思える。その原因は、事業に興味がない、一旦凍結するまでのプロセスに対するネガティブイメージを持つ方が多い印象を受けている。
- ・ 前回の印象の払拭方法を考えなければならない。
- ・ 多様な住民意見を受け入れることは必要だが、その取捨選択方法が悩ましい。行政としては広く住民の意見を聴きたい反面、どこまで意見を反映させるのかの判断が難しい。（→WSは意思決定機関ではないことを明確化することが重要）

【設計JV】

- ・ 様々な自治体で開かれた庁舎と言われるが、実際に職員の業務スペースをあまりに開くと働きづらい環境になる。重要なのは利用者との接点である窓口が心地よい環境になるかどうか。（→窓口の設計などは具体的に頻度高い利用者を交えたWSを行っても良い）
- ・ 庁舎は実際に利用するのは職員。委員会の委員に職員から多数選出されているが、心理的安全性が整っておらず意見を言える環境ではない。職員が自由に発現できる環境を作っていく必要がある。（→以前に組織ごとにNeedsの吸い上げは行ったが、WillやWantsを傾聴するWSの開催が必要）
- ・ 前回WSにも良かった点はある。良かった点をしっかり振り返り、今後のプログラムデザインに反映した方が良い。

【委員】

- ・ 今回WS実務経験のある委員が仮WGを形成しているが、他委員に対しての丁寧な説明を行い、他委員からご理解を頂くことが必要。また他の委員の意見もWSの運営に反映させるプロセスも必要。